

里山ロハスグループの1日目・3日(火)午後からの具体的な内容をご紹介します！

テーマ:農作業とわらすぐり

今回担当してくださる遠山藤原学校スタッフの岡本誠さんから皆さまへ:

『「藁」とは「木と同じくらいの価値のある草・お米のなる木・第2のお米」と古来からいろいろと表現され、現在判明しているだけで、縄文末期・弥生時代初期から藁が身近な生活用品として使われていたのではないかと文献にあります。石器から鉄鎌への道具発明の移行と同じくして、稲穂だけを選別する「穂首刈り」から私達が現在行っている「根刈り」つまり、はざ架けをして籾を脱穀、余った藁の部分様々な生活用品へ転換という循環サイクルが生まれたようです。「わらすぐり・わら打ち」を藁細工で使う技法「緇う・燃る・束ね・編み等約26通り技法があります」の前の下準備として「素材としてのワラづくり」といい、特にわら打ちは藁細工の出来を左右する重要な要因とのことです。里山ロハスグループに参加される方々には、ワラとお米またそれらとの日本人の古くからの歴史的背景及び関係を説明しつつ「わらすぐり」にあたりたいと思います。また時間に余裕がありましたら「わら打ち」も皆様に体験していただきたく存じます。わらから何とも形容できない「心が落ち着く良い香り」がすると思います。太陽・空気・大地からの恵みの香りといえますか。里山ロハスグループに参加される皆さまには、そのことも感じていただけたらと存じます。』

くわらすぐりの作業前・作業後のワラの様子&わら打ちの様子



1. 稲穂を根刈りしてはざかけ



2. 籾（お米の部分）を分離するとワラに

4月3日(火)〜4日(水)開催・遠山郷で未来を構想する
・学習グループ：乱世を生きる勇氣と戦略を学ぶ
・里山ロハスグループ：懐かしい未来を観る



3. わらすぐりをして葉を左手3束くらい
綺麗になるように取り除きます



4. ワラ束の先を捻りながら左手で持ち



6. 取り除いた葉は、詰め物として
藁マクラや藁布団の材料に



5. 右手指を熊手のように拵げ上下に動
かし葉を取り除いていきます

4月3日(火)〜4日(水)開催・遠山郷で未来を構想する
・学習グループ：乱世を生きる勇氣と戦略を学ぶ
・里山口ハスグループ：懐かしい未来を観る



7.茎の根元から穂先にかけて回しながら叩きます



8.わら打ちで叩く回数は200~400回程です



9.ワラを叩くことにより強度がまし
藁細工がやり易くなります



10.わら打ち後様々な藁細工にしていきます

4月3日(火)~4日(水)開催：遠山郷で未来を構想する
 ・学習グループ：乱世を生きる勇氣と戦略を学ぶ
 ・里山口ハスグループ：懐かしい未来を観る